

座談会

術中・術後の冠血管スパズム

出席者（発表順）*

二宮石雄	国立循環器病センター心臓生理
泰江弘文	市立静岡病院循環器科
豊田芳郎	和泉市民病院麻酔科
檀健二郎	福岡大学医学部麻酔科
斎藤隆雄（座長）	徳島大学医学部麻酔科

座長（斎藤）：それでは、定刻より少し早う
ございますが、始めさせていただきます。

本日は、お忙しいところをお集まりいただきま
して、ありがとうございます。

本日、「術中・術後の冠血管スパズム」という
テーマで座談会を企画させていただきましたの
は、従来、麻酔とか手術に関連した冠 spasm と
いうのは余り注目されていなかったのですが、最
近、それらしい症例が出てまいりまして、にわか
に注目を集めるに至ったという経過がございます。

麻酔科、ICU、それに冠再建手術をしていら
っしゃる方は別として、外科側では、冠 spasm
については予備知識が余らないと申してよいと思
いますが、Prinzmetal が異型狭心症というもの
を記載してから、相当年月も経っておりますので、
少なくとも内科側では、研究面あるいは臨床面で、
たくさんの蓄積をおもちだと思います。また、生
理学、薬理学においても、それに関連した基礎的
な研究も、おありになるのではないかと考えます
ので、本日は、ぜひお教えいただきたい面が沢山

ございます。

ひとつには、手術中あるいは麻酔から覚めてき
たときに起こるという状況の特殊性からみまして、
われわれが冠 spasm と思っているものは、一過
性の心筋虚血が起きていると判断されるというだ
けのことで、確信をもってこれが spasm だとい
える状況での報告が行われているわけではありま
せんので、その面でもいろいろ問題があるかと思
います。

さらに、麻酔、手術、ICUなどという場で起
きるこの種の症状は、もうひとつの特徴がありま
す。これは、ご承知のとおり、麻酔のときには、
いろいろな薬、たとえば麻酔薬、麻酔補助薬、各
種の循環器薬、その拮抗薬、あるいは筋弛緩薬、
その拮抗薬といったものが使われ、全身状態の
変化もいろいろありますので、その相互作用面も
多角的に考えなければならぬということで、大
変複雑な問題があるかと思えます。

そういうわけで、本日は結論を出すところまで
は、とても参らないと思いますが、これをひとつ
のきっかけとして、今後の発展のいとぐちにしたい
と考えております。

* 会場 大阪リバーサイドホテル
昭和56年5月24日開催